



平成 28 年 8 月 12 日

各 位

株 式 会 社 フ ィ ス コ  
 代 表 取 締 役 社 長 狩 野 仁 志  
 ( J A S D A Q ・ コ ー ド 3 8 0 7 )  
 問 い 合 わ せ 先 :  
 取 締 役 管 理 本 部 長 松 崎 祐 之  
 電 話 番 号 0 3 ( 5 7 7 4 ) 2 4 4 0 ( 代 表 )

## 第 2 四半期連結業績予想と実績との差異及び特別損失の発生に関するお知らせ

平成 28 年 2 月 16 日に公表いたしました平成 28 年 12 月期第 2 四半期連結累計期間の業績予想と実績との間に差異が生じたので、下記のとおりお知らせいたします。また、特別損失が発生しましたので、併せてお知らせいたします。

### 記

1. 平成 28 年 12 月期第 2 四半期連結累計期間業績予想数値と実績値との差異  
 (平成 28 年 1 月 1 日～平成 28 年 6 月 30 日)の連結業績予想との差異

(単位:百万円未満切捨)

	売上高 (百万円)	営業利益 (百万円)	経常利益 (百万円)	親会社株主に帰属 する四半期純利益 (百万円)	1株当たり連結 四半期純利益 (円 銭)
前回予想(A)	6,961	△30	△87	△274	△7.55
今回実績(B)	6,205	△454	△605	△859	△23.12
増減額(B-A)	△756	△424	△518	△584	
増減率(%)	△10.9	—	—	—	
(ご参考) 前期第 2 四半期実績 (平成 27 年 12 月期第 2 四半期)	3,934	△231	△241	△70	△1.94

2. 第 2 四半期累計期間業績予想値との差異が生じた理由

売上高は、デバイス事業における売上高が当初の見込みを下回ったことにより、6,205百万円となり、前回予想を756百万円下回りました。営業損益につきましては、株式会社ネクスグループの原価率が高いことから売上総利益額の十分な確保ができなかったことに加え、SJI等の連結化に伴うのれんの償却額367百万円を計上した影響もあり、営業損失454百万円となり、経常損失605百万円となりました。親会社株式に帰属する当期純損益は、見積遅延損害金戻入額58百万円及び貸倒引当金戻入額13百万円等の特別利益90百万円を計上したものの、デバイス事業における減損損失442百万円等の特別損失451百万円を計上したこと等により親会社株式に帰属する当期純損失859百万円と当初計画を584百万円と大幅に下回る結果となりました。

### 3. 特別損失の計上

株式会社ネクスグループの主要子会社である株式会社ネクスは、数年前まで受託型開発を主としてデバイス事業を推進しておりましたが、委託企業への依存度が高くなるリスクを回避するため、株式会社ネクスが製品販売元として営業を拡大していく開発先行型へと事業転換を図っております。しかしながら、開発先行型としたことにより、開発費や原価等が先行して発生するものの、売上高の計上時期の不確実性が増す結果となり減損の兆候を認識いたしました。

そのため、慎重に検討した結果、株式会社ネクスグループののれんを減損し、減損損失として442百万円を計上いたしました。

### 4. 通期連結業績の見通し

平成28年12月期通期連結業績予想につきましては、平成28年2月16日に公表いたしました業績予想を変更しておりません。平成28年8月1日付で連結子会社化しました株式会社チチカカの業績に与える影響を精査中のため、通期の業績予想が確定し次第、速やかにお知らせいたします。

以 上